

出題分析		
試験時間 100 分	配点 200 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
【概評】 ここ数年の問題と比べて出題形式に大きな変化は見られない。I・IIは長文読解で英文の分量はどちらもたいてい3ページ程度、設問としては、空所補充、同義選択、内容一致などがあり、下線部和訳がI・IIどちらかにある。大問IIIは会話文で、空所補充と1~2行程度の和文英訳が定番である。英文自体および設問の難度は標準的であるが、英文のボリュームからすると、精度だけでなく相当のスピードが要求される。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「幼生期のゼブラフィッシュの記憶と学習」 ○語数：911 語 (昨年) 887 語	幼生期のゼブラフィッシュの自衛のための記憶と学習に関する研究について述べた文章。Cの内容把握の(ウ) staggered はここでは「(時期などが)段階的な」というような意味。Fの和訳は、無生物主語のため、 enabled の目的語である the fish を主語として訳すと自然な日本語になる。	標準
II	長文読解 「サンタクロースが存在するという嘘が子どもに与える影響」 ○語数：868 語 (昨年) 977 語	サンタクロースが存在するという嘘は、真実に反するという点で倫理に背くが、偽りを見抜く力を鍛えもするということを述べた文章。Bの同義語句選択では、(b) solid , (i) navigate が悩みどころかもしれない。Cの内容把握の(ウ) making their way in the world は、「困難に立ち向かいながら自力で前進すること」という意味。下線部(i)の navigate the world と通ずる。本文はやや難解だが、Eの内容一致は比較的素直な問題であった。	標準
III	会話文 「カンボジアを旅行中の男女による写真撮影に関する会話」 ○語数：413 語 (昨年) 488 語	カンボジアの遺跡観光における暑さ対策や、写真の構図「三分割法」について論じる場面。Aの空所補充は、天候の話題から撮影技術の具体的な助言、新旧カメラの比較へと展開する文脈を追うのがポイント。Bの英訳は、「~よりもずっと使いにくかった」を比較級の強調表現 (much / far + 比較級) を用いて表現する。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)												
大問 番号	設問数	選択式						記述式				
		空所 補充	同義 選択	内容 把握	語句 整序	内容 一致	その他	和訳	英訳	自由 英作	内容 (理由) 説明	その他
I	6	3	8	3	1	3/8		1				
II	5	3	9	3	1	3/8						
III	2	8							1			

※「選択式」および「記述式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。ただし、内容一致については、正答数/選択肢数を表している。

合格のための学習法

同志社大学の英語で高得点をあげるには、まず確固とした長文読解力を養うことである。1学期は基本的な語彙、文法の知識を身につけながら丁寧に正確に英文を読む練習を積んでいこう。構文が複雑な箇所や読みにくい箇所は日本語に訳してみても、和訳答案作成の練習も怠らないこと。8月以降は、折に触れ、過去に出題された長文問題を1題40分で辞書を使わず解いてみることを勧める。それによって知らない単語でも前後の文脈から類推する力が養われるはずであり、これはとりわけ同志社の英語を読み解くのに不可欠な技能である。また、年間を通じて、基本的な英訳問題で高得点をあげる訓練も積んでいこう。良問ぞろいの同志社英語は君の努力を裏切ることはない。